

その救急車、必要ですか？



救急車はケガ人や急病人を緊急に病院へ搬送するものです。

大磯町では昨年1年間で救急出動が1599回あり、過去最高の出動回数となりましたが、搬送された人のうち半数近くが入院の必要のない「軽症」と診察されました。

緊急性のない場合に救急車を要請すると、1分1秒を争う生命の危険にさらされた傷病者のために救急車を使うことができなくなります。

緊急性がなく自分で病院に行ける場合は、公共の交通機関等を利用して下さい。しかし、傷病者の様子、ケガや事故の状況などから、急いで病院に連れて行った方が良いと思つた時は、ためらわずに119番通報をして救急車を要請してください。

＋こんな時は救急車を！

- ・意識がない
- ・急に倒れた
- ・息苦しい、息をしてない
- ・激しい頭痛、胸痛、腹痛等
- ・急に言葉が出なくなった
- ・手足が動かず、感覚がない
- ・顔色が悪く冷汗がある
- ・やけどの範囲が広い
- ・けいれんが続いている
- ・骨折している



＋誤った利用！

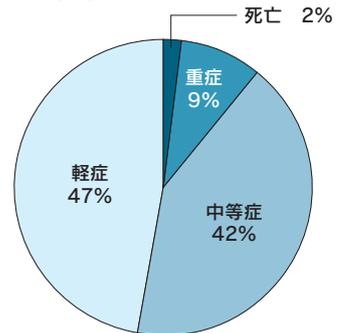
- ・自家用車がない
- ・早く診察してもらえない
- ・入院や通院のため
- ・病院を探すのが面倒
- ・救急車は無料だから
- ・軽い手足の傷等
- ・風邪、歯痛、酒酔い等

救急車を呼ぶ必要があるかを迷ったり、診察してもらえない病院がわからない場合、消防署までお問い合わせください。

救急車は限りある医療資源です。呼ぶ前に本当に必要なかもう一度お考えください。節度ある使用をお願いします。

救急搬送された人の内訳

- 軽 症：入院を要しないもの
- 中等症：重症または軽症以外のもの
- 重 症：3週間の入院治療を要するもの
- 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの。



▲訓練中の救急隊員

消防署 ☎(61)0911

救急の現場から

2

救急の現場で困ること、それは救急搬送する方の情報不足です。名前・生年月日・持病・かかりつけ病院・飲んでる薬や緊急連絡先等の情報が少ないことです。

皆さんは、これらの家族の情報を書きといておいておくことが出来ますか。私たち救急隊の経験では、ほとんどの方が充分把握していないようです。

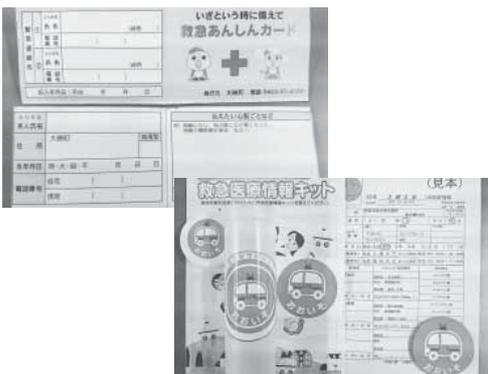
救急隊は、搬送する方の状態のほか、少しでも多くの情報を搬送先病院に伝え、これらの情報を元に持病が悪化したものなのか、医師による診療が病院到着前から開始されています。

「かかりつけ病院ならば情報はわかるでしょ!」いいえ、すぐには把握できません。いつも診ている医師が診察することはほとんどなく、まずは救急担当の医師が診察をして状態に合わせた専門医に治療をゆだねます。救急隊が情報を病院に前もって伝えることによりスムーズに診療が開始されるのです。

町では希望者の方を対象に「救急医療情報キット」を福祉課で配布しています。これにご自分の情報をあらかじめ記載し、専用の容器に入れ自宅(冷蔵庫が一般的)で保管してください。

キットを保管してある目印として冷蔵庫の扉や玄関ドアの内側にステッカーを貼ることで救急隊が現場で把握できます。また情報を把握する手段として町では「救急あんしんカード」を作成しています。これは、外出先での急な事故や体調不良の際に、本人確認や緊急連絡先の確認を円滑に行うため、必要事項を記入していただき、外出時お財布等の持ち歩くものの中に入れておくカードです。

いづれも緊急時、非常に有効なものとなりますので、高齢者に限らず活用をお願いします。



消防署 ☎(61)0911
福祉課 ☎内線316